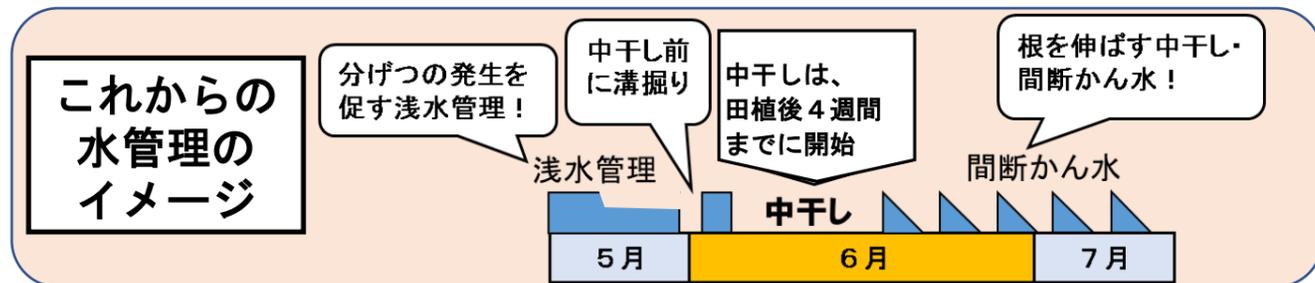


# 稲作管理特報

収量・品質を安定させる第1歩は、『初期生育の確保から！』です。  
まずは、浅水管理を徹底し、分けつの発生を促しましょう。  
次に、田植え後4週間までに中干しを開始し、夏の高温に耐えられるしっかりとした「根づくり」に取り組みましょう。



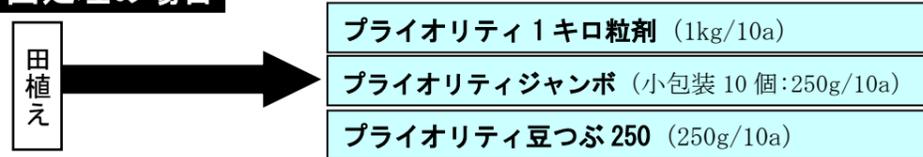
## 1 浅水管理 ～初期茎数を確保する～

- ・活着後は、水深3cm程度の浅水管理で水温を高め、分けつの発生を促しましょう。
- ・入水は早朝か夕方に行い、日中は止水で田水温の上昇に努めましょう。
- ・強風や低温時には水深5cm程度の深水にし、天気回復後は浅水管理に戻しましょう。
- ・藻が発生している場合は、水の入れ換えを行いましょう。また、ガスが湧いている場合は、1～2日程度の軽い田干しを行いましょう。

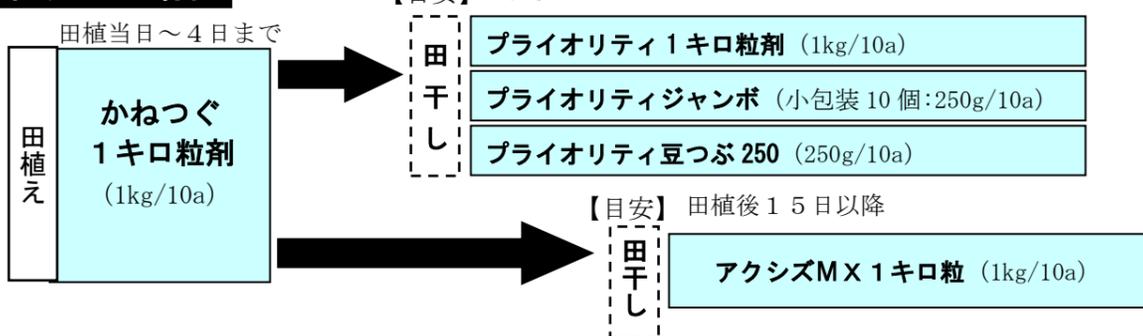
## 2 除草剤散布 ～散布後5日間は湛水状態を保つ～

- ・気温が高いと雑草の生育が早まるので、薬剤ごとの散布目安を参考に、遅れずに散布しましょう。
- ・散布前に5cm程度入水し、5日間は湛水状態を保ちましょう。チラ干しを確認したら、薬剤の処理層を壊さないようゆっくりと入水し、散布後7日間は落水しないでください。
- ・2回目の除草剤散布前に1～2日程度の軽い田干しを行い、藻を除去し、除草効果を高めるとともに、根に酸素を与えましょう。
- ・藻や表層剥離の多発ほ場では、ジャンボ剤や豆つぶ剤の使用は避けましょう。

### 1 回処理の場合 【目安】田植え後5～10日まで



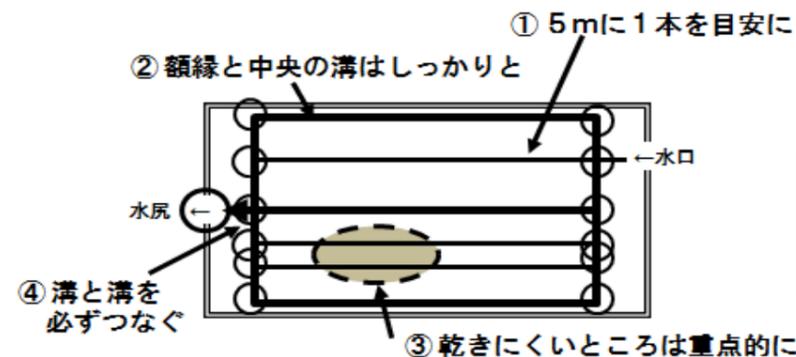
### 2 回処理の場合



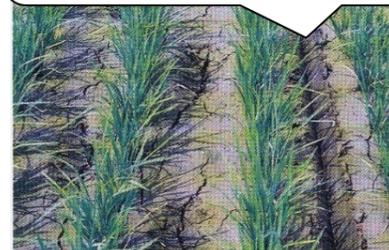
「溝掘り・中干し」は適期を逃さずに言い、しっかりと根を伸ばそう！

## 3 溝掘り ～中干しの効果を高める～

- ・溝掘りは、中干し前に必ず実施しましょう。
- ・溝は5mに1本を目安に掘り、ほ場の周囲と中央の1本は、特にしっかりと掘りましょう。また、掘った溝は、水尻まで確実に連結しましょう。
- ・粘質土や排水不良の場合は、額縁排水溝もほりましょう。



軽く田干しを行い、泥を落ち着かせてから溝を掘ると、溝がしっかり残ります！



### 【溝掘りの効果】

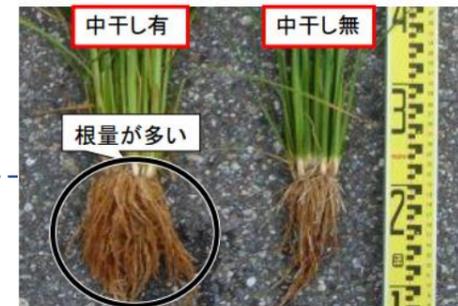
- ・ほ場のすみずみまで均一に干すことができる。
- ・間断かん水の際など、水の出し入れがスムーズに行える。

## 4 中干し ～根の量をしっかりと増やす～

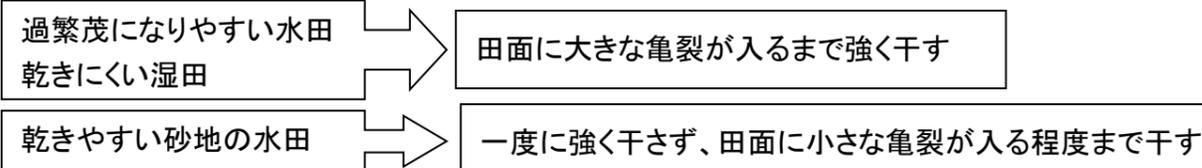
- ・中干しは、晴れ間を見極めて田植え後4週間以内に開始しましょう。

### 『中干しの程度』

- ・中干しは5～7日間程度行い、田面に小さな亀裂が入り、“足跡が残る程度”まで干しましょう（一度に干せなかった場合は、数回繰り返す）。



【中干しによる根量の違い】



### 【中干し開始日の目安】

田植日	中干し開始日
5月10日	6月7日頃
5月15日	6月12日頃
5月20日	6月17日頃



【中干し終了頃のほ場の状態】

ただし、『干し過ぎ』は、稲の生育にダメージを与えます。数回に分けて適度に田干しを行いましょう！

- ※葉色が濃く、過繁茂気味の田や乾きにくい田は、やや強めに干しましょう。（ただし、落水期間は7日間以内とし、週に1度は溜まらない程度に入水する。）
- ※茎数が少なめの田や乾きやすい田は、一度に干しあげないようにしましょう。

★JA みな穂営農情報メールを配信しています。右のQRコードを読み込み、案内に沿って手続きして下さい。  
【情報の内容】 水稻・大麦・大豆の生育情報及び今後の管理  
・気象情報と災害防止の対策

